



環境広場



「お針子事業」で環境人づくり企業大賞受賞

日本リユースシステム

「古着deワクチン」でSDGsアワードも

日本リユースシステム(東京都港区、山田正人社長)は「お針子事業」で環境人づくり企業大賞2019で最優秀賞に当る環境大臣賞を受賞した。同社が社員を対象に行っている環境(SDGs)教育がそれをもとに始まった「お針子事業」が、日本を不要になった着物や帯の廃棄減少や温室効果ガスの削減につながり、SDGsの達成に貢献している点が評価された。昨年末には第3回目となった「ジャパンSDGsアワード」で、「古着deワクチン」の取り組みが評価され特別賞(SDGsパートナーシップ賞)も受賞。同社は「捨てさせない屋」をモットーに、日本の「お返し」を世界の「お返し」にするさまざまな取り組みを進めている。



お針子事業ではモンゴルで着物や帯を再利用

環境人づくり企業大賞は地球環境に配慮した企業経営の必要性を認識し、その実現のため自ら進んで行動する人材を育成する企業を表彰するもの。6回目となった今回は合計81件の応募があり、その中から環境大臣賞中小企業区分の最優秀賞に同社が選ばれた。同社が行っている「お針子事業」は、ハンドメイドを趣味とする社員の発案がきっかけとなり、2017年に開始された。一般家庭などで眠っている着物を集めて、モンゴルの現地法人に輸出し民族衣装「デル」の素材として再利用するという取り組みだ。「伝統(着物や帯)×伝統(民族衣装)＝進化(進化系民族衣装)」をテーマに掲げ、これまで41万点以上の着物や帯を再利用してきた。

日本やモンゴルの学生に着物等が廃棄される現状を知ってもらい、環境意識を高めてもらうよう、両国の学校でセミナーも開催。着物等が廃棄される問題解決のコンセプトに賛同した日本の服飾学校の生徒らが「お針子デル」を任立ててモンゴルの催しで披露するなど、廃棄減少につながる取り組みを進めている。社員教育としては、全社員を対象に希望するセミナーを無料で受講できるようにしているほか、社員向けの基礎講座分の衣装を再利用し、33.8万8740人分のワクチンを寄付している。一方、SDGsアワード(主催SDGs推進本部、本部長 安部晋三首相)では、「古着deワクチン」の取り組みが評価され特別賞を受賞している。これは、不要となった衣類を回収して開発途上国で再利用するのと同時に、リユース・リサイクルと同時に途上国の子どもたちの命を守ることもつながっている。2010年の開始から今年で10年目を迎え、4月までに累計で約188.5万4650着の衣装を再利用し、33.8万8740人分のワクチンを寄付している。

コロナ問題で資料の郵送もままなりませんので、電話話を休み、最新の服装問題をお伝えします。私たちが本格的な伐採を2018年国は五輪開会の道路整備や地下埋設工事のため、重要な道路崩れが危うい状態です。幸い多くの方のおかげで減りつつあります。

コロナがその弊、急に増えた伐採理由があります。道路崩れ診断によつて「不健全」とされた木を、倒木を防ぐための伐採するので、樹木をモノ扱いし、刈込し、思案を欠いて捨てる。

4月に実施した事例を挙げます。東京都建設局第1建設事務所(一連)が所管する代田区、中央区、葛城区の道路崩れ、計1万本弱の伐採、昨年1800本を道路崩れ診断し、「不健全」とされた175本を伐採し伐採し始めたのです。道路崩れ診断とは、樹木医の資格者が、樹木の外観や打音や空洞などから道路崩れの健全性を診断し、

古着deワクチン事業を担当するコバヤキリ・ライフサイ・ビス部部長の今野優子さんは「10年間続けて来たのは利用していたいた累計何十万というユーザーの皆様や、共同事業として携わってくださる企業様・団体様などの支援のおかげ。今後も皆様の『思い』を大切に、より多くの衣類をリユースしていただけるよう、SDGs達成に向けて頑張りたい」と話している。



古着deワクチンの取り組みは10年目を迎えた